2018年1月1日
５７号

かけはし

ひたちなか総合病院広報誌

発行所　㈱日立製作所ひたちなか総合病院
〒312−0057
ひたちなか市石川町20番1
TEL 029(354)5111
発行人　飯　嶋　和　秀
編　集　広報委員会
http://www.hitachi.co.jp/hospital/hitachinaka/index.html

新年のごあいさつ

院長　吉　井　慎　一

新年明けましておめでとうございます。皆様方におかれましては清々しい新年を迎えられたことと心からお慶び申し上げます。

昨年度は４月に病院長の交代はありましたが、「質を武器にした健全な医療経営で地域を護る病院」として、前院長の作り上げてきたことを継続する努力をしてまいりました。医師では、耳鼻咽喉科が一人体制になり、手術の受け入れが難しくなりましたが、それ以外の診療科はほぼ継続し、さらに総合診療内科医師、リハビリテーション科専門医が加わることで、より充実した年でありました。その一方で、外来ブースの不足、満床が続くと救急の受け入れが困難になるという問題も生じてきました。地域の皆様、先生方にはご迷惑おかけしたことをお詫びいたします。

地域医療構想が策定され、地域包括ケアの構築に向けて、昨年度から「地域医療調整会議」、「医療介護連携協議会」が本格的に開始されました。地域の皆様が安心・安全な医療、介護を受けられるよう2025年に向けて継続的に議論・検討が行われていきます。本年度は、地域における自身の病院がどのような役割をもっており何が期待されているか認識し、どのような方向に進むべきか、更なる検討をする必要があります。当院は引き続き、急性期を主体とした病院として地域医療に貢献する責務があると考えています。当院は慢性期病棟をもっていませんので、地域の医療機関、介護施設等との連携がさらに重要になると考えています。

健全な医療経営に関しては、本年度は４月に医療・介護報酬同時改定が迫っています。現段階では、はっきりした情報はありませんが、いろいろな場合を想定して、病棟再編も踏まえて、柔軟に対応していく必要があります。診療報酬マイナス改定が噂されるなか、当院のストロングポイントをさらに強化して、質の高い医療を提供できるよう、健全なる経営をめざしてまいります。

医療、とりわけ病院は、医師、看護師だけでなく多くの職種によって成り立っています。職員全員が、おかれている医療環境を認識し、同じ方向を向き困難に立ち向かっていく覚悟でいます。本年度もご支援、ご協力のほどをよろしくお願いいたします。

最後になりますが、この一年間の皆様方、ご家族のご健勝とご活躍を祈念し、新年のご挨拶とさせていただきます。

ひたちなか総合病院・総合健診センタ休日のお知らせ

	日	月	火	水	木	金	土
1月		①	②	③	④	⑤	⑥
	⑦	8	9	10	11	12	⑬
	⑭	15	16	17	18	19	⑳
	㉑	22	23	24	25	26	㉗
	㉘	29	30	31			

	日	月	火	水	木	金	土
2月					1	2	③
	④	5	6	7	8	9	⑩
	⑪	12	13	14	15	16	⑰
	⑱	19	20	21	22	23	㉔
	㉕	26	27	28			

	日	月	火	水	木	金	土
3月					1	2	③
	④	5	6	7	8	9	⑩
	⑪	12	13	14	15	16	⑰
	⑱	19	20	21	22	23	㉔
	㉕	26	27	28	29	30	㉛

	日	月	火	水	木	金	土
4月	①	2	3	4	5	6	⑦
	⑧	9	10	11	12	13	⑭
	⑮	16	17	18	19	20	㉑
	㉒	23	24	25	26	27	㉘
	㉙	30					

■はひたちなか総合病院休日　○は総合健診センタ休日

連携室通信

No.4

総合診療科

総合診療内科　柴﨑　俊一

「総合内科って、何を診てくれるの？」そんな人がほとんどではないでしょうか？端的にお答えするならば、「オールラウンダー」、「高齢化社会のニューヒーロー」といったところでしょうか。

*ある医学書には、「内科学は、疾病を発見し、対処して、患者の社会生活を可能な限り健康的に維持するための臨床科学」とあり、それを実践するのが内科医です。「内臓の疾患を診て、今後の生活をサポートするオールラウンダー」とお伝えするほうがイメージが沸きやすいかもしれません。野球で言うなら、守れるポジションが複数あり、バントもうまく、そこそこの打率で、まぁまぁ走れる。そんな選手です。一方で、決して盗塁王にはなれません。ホームラン王にもなれません。どうしても、盗塁、ホームランが必要なときは、得意な人に交代をする必要があります。「それって強みがないってこと？」と思われるかもしれません。いえ、決してそんなことはありません。当科は「今後の高齢化社会で、最も社会ニーズにフィットする科の１つ」と自負しています。

３つの例をあげて、考えてみましょう。

１つ目は内科入院患者の総合管理です。ご高齢の方は、複数の疾患をお持ちの方がたくさんいらっしゃいます。そのため、複数の医療機関・医師に診てもらっている方も多いことでしょう。そんな方が入院した場合、一体誰が中心に診ることが望ましいでしょうか？疾患自体は、互いにつながっていることが多いです。そのため、とある病気で入院したら、他の持病にも影響が出て…なんてことが頻繁におこります。そんな時には当科の出番です。複数の疾患を最新のエビデンスに準拠してマネジメントします。

２つ目は複合的な内科疾患の診断です。複雑な症状の方は、新たに出現した疾患の診断が難しいケースがあります。しかし実際当科では、他ではなかなか診断されない、聞きなれない疾患も多数診断している実績があります。

最後は、社会生活のサポートです。当科ではどうしても複雑な疾患の方やご高齢な方が多く、そのまま家には帰れないという方が大勢いらっしゃいます。その場合、「病気が治ったから、はい、もう退院してください」とは決していたしません。原則、医師を交えた複数の医療スタッフで、ご家族と直にご相談し、退院後のお手伝い、サービス調整、今後の通院先のご案内などをさせていただいています。

イメージは沸いたでしょうか？当科は、ひたちなか市周辺の皆様の健康維持の一翼を担うことを目標としています。ぜひ、お気軽にご相談ください。

*杉本恒明他：内科学，朝倉書店，2007

部門紹介

救急外来スタッフ

救急外来には、急性疾患、慢性疾患の急性増悪、突発的な外傷、精神疾患など、様々な患者さんが来院されます。突然のことで患者さんはもちろんのこと、ご家族など付き添いの方も不安を強く抱いておられます。

私たちは煩雑な業務の中でも、看護師や医師と連携を図り、患者さん・ご家族の不安の軽減に努めています。早期治療ができるように、24時間体制で心臓カテーテル検査や内視鏡の検査・治療に対応しています。

院内クリスマスコンサート

2017年12月９日（土）、入院患者さんやそのご家族を対象に院内クリスマスコンサートを開催しました。

医師や看護師、リハビリスタッフなどの職員がバイオリン、ハンドベルなどでクラシックや親しみのある曲を演奏しました。スタッフからのささやかなクリスマスプレゼントに、患者さんやご家族のたくさんの笑顔を見ることができました。

地域の先生紹介　亀山医院

●当院の歴史と特徴

亀山医院は亡き父が旧勝田市の募集を受け、1963年５月に前渡地区の診療所の院長として赴任したことに始まります。1970年に現在の地に移転しました。家庭医としての内科・小児科医院から2003年には外科・胃腸科も標榜し専門性も打ち出しています。2017年には院内の大改修を行いました。これからも来院される方々が快適に感じていただけるような診療所をめざし、日常の診療は基より各種健康診断・がん検診・種々の予防接種に積極的に取り組み、地域医療の充実に尽力してまいります。

当院の自慢は来院患者さんの年齢層の幅広さです。定期の予防接種が始まる生後２ヶ月の乳児から100歳の方まで、老若男女・多種多様な患者さんに利用していただいていることに誇りを感じています。そのような背景からひたちなか総合病院には様々な病態の患者さんを受け入れていただき、この場をお借りして深謝申し上げます。

●院長の横顔

私は1988年昭和大学医学部を卒業後、外科学教室に入局しました。当時の昭和大学外科学教室は脳神経外科から小児外科まで各診療科を含む大医局制を取っていました。総合診療の概念に乏しかったその当時、新卒で入局後各診療科をローテーションして研修できる貴重な教室でした。1999年に退局し浦川会勝田病院に就職、2003年に亀山医院の院長として父の後を継ぎ現在に至っております。

趣味はマラソンで、始めてから十数年になります。毎年フルマラソンは、東京マラソンをメインレースとして水戸・勝田・かすみがうらの計４大会とハーフマラソン１大会に参加しています。自己最高タイムは2017年の東京マラソンで３時間２分46秒です。私にとってはサブスリー達成が、何歳になっても夢であり永遠の目標です。

診察・検査の予約お問い合わせは地域医療連携室へ

㈱日立製作所ひたちなか総合病院
茨城県ひたちなか市石川町20番1
TEL 029-354-5111（代表）

8時15分～16時30分（平日月曜日～金曜日）
TEL 029-354-5202（直通）
FAX 029-354-5220（直通）

タッチケア教室のご案内

〈タッチケアとは・・〉

赤ちゃんと親とが、見つめ合い・しっかり触れる・なでる・手足を曲げ伸ばすなどのスキンシップを通して、「親と子のきずな」を深めてゆくことを言います。

日　時：2018年２月19日（月）　14時～15時
場　所：ひたちなか総合病院　６階西病棟
対　象：生後２ヶ月～６ヶ月の赤ちゃんとその親
定　員：５組
費　用：無料
持ち物：バスタオル１枚、赤ちゃんのお出かけに必要なもの（オムツ、おしり拭き等）

タッチケア後は、お茶を飲みながらみなさんでおしゃべりしませんか♥

申し込み・問い合わせ先：
産婦人科外来：TEL 029－354－5111（代表）【平日９時～16時】

アルコールとの上手な付き合い方

飲酒機会の多いこの時期、今年は健康で穏やかな１年を過ごそうと決意された方もいらっしゃるのではないでしょうか？新しい年を迎え、百薬の長とするためにも、アルコールとの上手な付き合いを心がけましょう。

まずは、飲み過ぎがどのくらいか、チェックしてみましょう。アルコール度数をもとに、純アルコール量を計算し、アルコール10gを１単位（１ドリンク）とする考え方が一般的です。厚生労働省の「健康日本21」では、１日平均、男性４ドリンク以上（日本酒２合、ビール中ビン２本）、女性２ドリンク以上が生活習慣病のリスクを高める飲酒量とされています。

お酒に強い、弱いはアルコール分解能力の差で、世界的に日本人は44％が弱いことになります。適正飲酒で、アルコールによる肝障害・肝硬変・慢性膵炎、がんなどのリスクを減らしましょう。

〈適正飲酒の10か条〉

1．談笑し楽しく飲むのが基本です
2．食べながら適量範囲（日本酒１合、ビール中ビン１本他）でゆっくりと
3．強い酒、薄めて飲むのがおススメです
4．つくろうよ、週に２日は休肝日
5．やめようよ、きりなく長い飲み続け
6．許さない、他人への無理強い・イッキ飲み
7．アルコール、薬と一緒は危険です
8．飲まないで、妊娠中と授乳期は
9．飲酒後の運動・入浴・要注意
10．肝臓など定期健診を忘れずに

医師異動の紹介

診療科	氏　名	異　動　日
臨床研修医	飯　島　麻里絵	退職（2017．11．30）
	垣野内　　航	採用（2017．12．１）
	白　根　和　樹	退職（2018．１．３）
	西　塔　翔　吾	採用（2018．１．４）
	竹　内　直　人	採用（2018．１．４）